

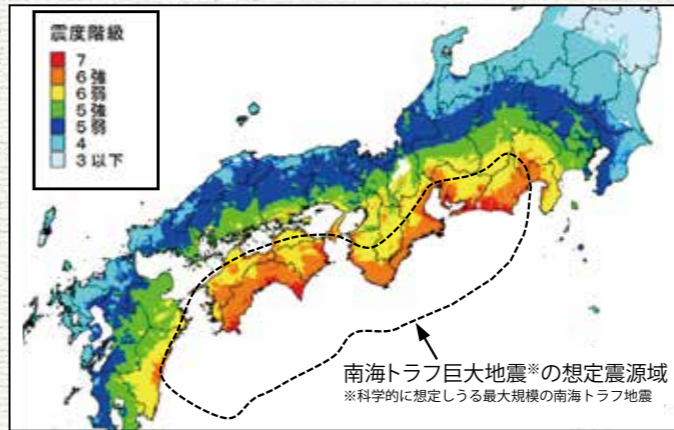
地震への備えと行動

災害時に命を守る備えと行動

南海トラフ地震の発生が危惧されています

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として、概ね100〜150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。今後30年以内の発生確率は70〜80%といわれており、理論上最大クラスの南海トラフ地震が発生した場合には、町内の大部分が震度6弱の揺れに見舞われ、死者約20名、全壊家屋約600棟という被害が想定されています。また、全国では三重県を含む10県で最大震度7を予測し、死者約32万人、全壊家屋約239万棟の被害が想定されています。さらに、津波や液状化によって上下水道、発電所、コンビナート、工場、港等が被害を受けることで、水、電力、燃料、食料、物資等が極端に不足する恐れがあります。

南海トラフ巨大地震の震度分布図
(出典：気象庁)



ます。迫りくる巨大地震から自分の命や家族の命を守るため、日頃から防災対策を行うとともに、地震に対する知識を身に付けておくことが大切です。

普段から備えておくことは…

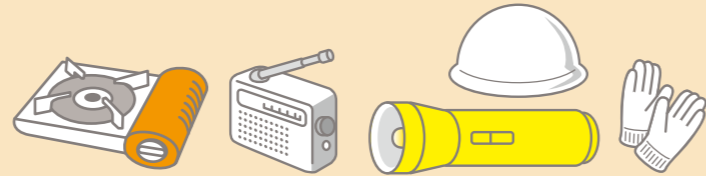
！ 備蓄品を用意しよう！

食料関係



水(1人1日3Lが目安)、乾パンやクラッカー、鍋や水筒、レトルト食品、ナイフや缶切り、粉ミルク、ほ乳びんなどを1週間分程度

日用品



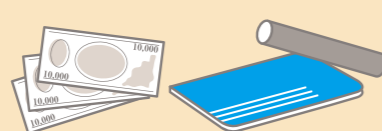
卓上コンロ、ロープ、使い捨てカイロ、携帯ラジオ、電池、筆記用具、懐中電灯、ラップ、大きなゴミ袋、マッチやライター、生理用品、ティッシュやウェットティッシュ、ヘルメット、軍手など

安全対策



救急医薬品、防災ずきんや帽子、常備薬の予備、底の厚い靴など

貴重品



現金、預金通帳や有価証券などの権利証書、印鑑、身分証明書など

衣類関係



衣類や下着、寝袋、タオルや毛布、雨具など

！ 家族で防災会議をしよう！

地震はいつ起きるか分かりません。家族と一緒に家にいるとき、それぞれが会社や学校に行っているときなど、様々な場面が考えられます。普段から地震が起こったときの連絡方法を決めるなど、自分の状況に合わせた想定と対策を家族で話し合っておくことが重要です。地震時には電話が繋がりにくくなるため、安否情報を録音再生する災害用伝言ダイヤル「171」や、災害時でも連絡の取りやすいメール、SNS等を活用しましょう。

！ 家具等を固定しよう！

大地震によるけがの原因の約4割は、家の中の家具の転倒や落下によるものです。大地震で出血や骨折などのけがをした場合でも、町内の至る所で様々な被害が発生しているため、救急車がすぐに出勤できず、病院に行ってもすぐに治療を受けられないかもしれません。地震でけがをしないためにも、寝る場所に背の高い家具を置かない、転倒や落下のおそれのある家具は固定する、固定が難しい家具は背の低いものに買い替えるなど、事前に対策をしておきましょう。

避難時の注意事項



よく知った安全な避難コースを通る



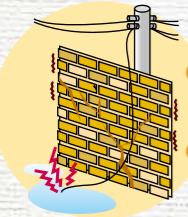
飲料水や食料などを詰めた非常持出袋を持って避難する



徒歩で避難する
●役場や消防団の指示に従って行動する



●ガスの元栓を締め、電気のブレーカーを切る
●火の始末、戸締まりをする



●垂れ下がった電線に触らない
●ブロック塀などに近づかない



●救護が必要な場合は協力し合って行う

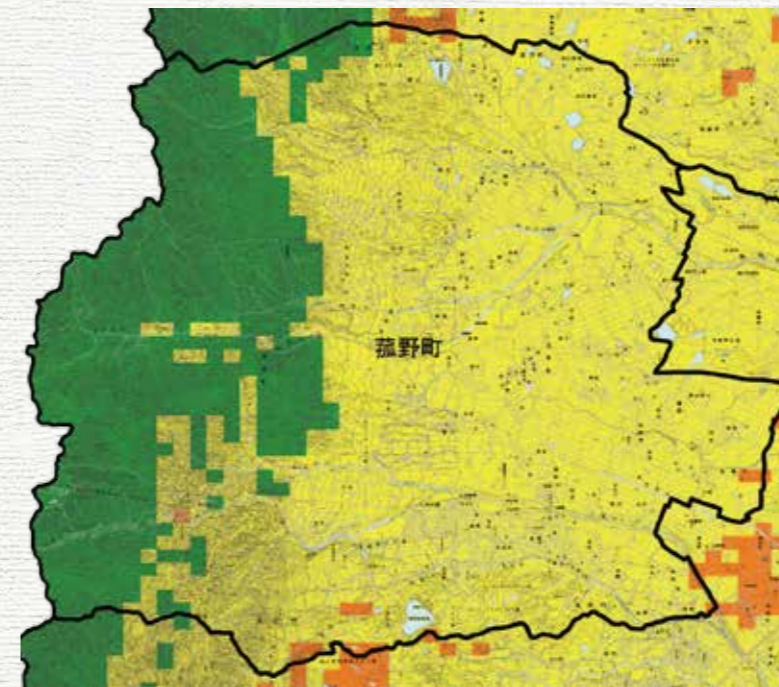


●正確な情報を入手する

【問い合わせ】

総務課安全安心対策室
TEL 391-1102
FAX 394-3199

南海トラフ地震が発生すると



南海トラフ地震が発生した場合の震度予測の分布です。町内の大部分で震度6弱、特に地盤の弱い所では震度6強が予測されています。

！ 震度と被害の状況

震度	人間	建物
4	一部の人が身の安全を図り、眠っている人のほとんどが目覚めます。	通常では、ほとんどの建物に被害は生じない。
5弱	多くの人が身の安全を図り、一部の人が行動に支障を感じる。	耐震性が低い住宅では壁や柱が破損するものがある。
5強	とても強い恐怖を感じ、多くの人が行動に支障を感じる。	耐震性が低い住宅では壁や柱がかなり破損する、または傾くものがある。
6弱	立っていることが困難になる。	耐震性が低い住宅では倒壊するものがあり、耐震性が高い住宅でも壁や柱が破損するものがある。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。	耐震性が低い住宅では倒壊するものも多く、耐震性が高い住宅でも壁や柱がかなり破損するものがある。
7	揺れに翻弄され、自分の意思で行動できない。	耐震性が高い住宅でも大きく破損する、または傾くものがある。